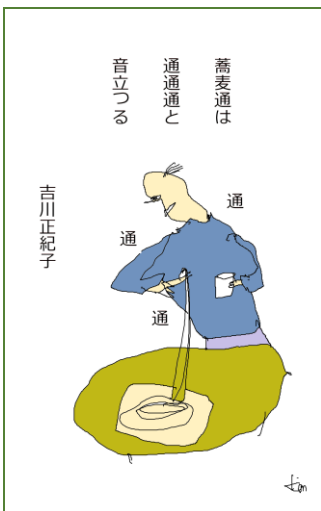




魚板打てば皆ちりぢりに鯛雲

田村米生

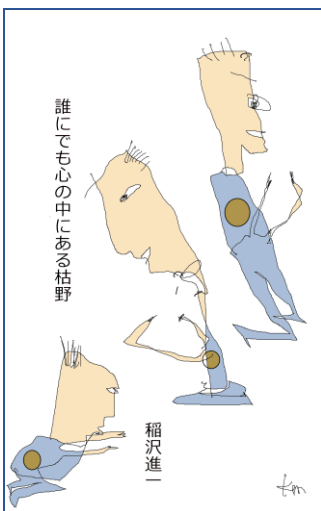
禅寺などで時間や行事を知らせるために魚の形をした板を打つ。この変形が木魚。たまたま近くにいた鯛雲たちが反応したんだね。



蕎麦通は通通通と音立つる

吉川正紀子

蕎麦通の「通」を、食べる時の音に利用して巧みである。こんな表現は見たことがない。俳人たるもの誰もしていない表現を見つけてこそである。



誰にでも心の中にある枯野

稲沢進一

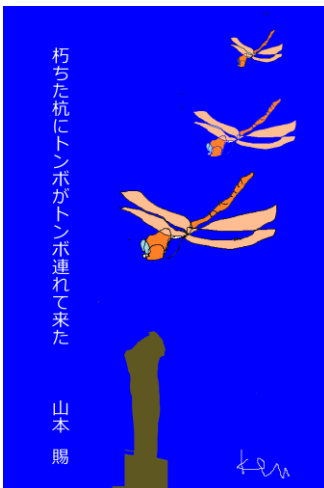
人の心の中には闇や影があるもの。ただ、日常は、忙しさに紛れてそれに気づかないだけである。時には枯野に立って風に吹かれてみるもよし。



灯火親しめど眠気には勝てません

赤瀬川至安

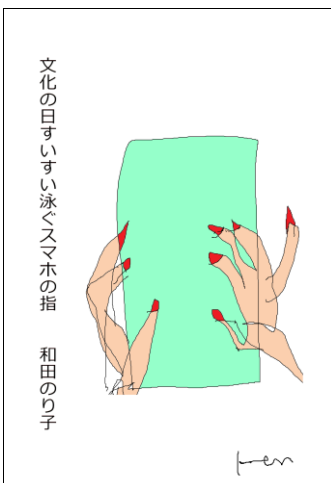
「灯火親しむ」は極めて真面目な季語だが、作者は「眠気には勝てない」と正直に告白している。季語を裏切ったところに滑稽が出たね。



朽ちた杭にトンボがトンボ連れて来た

山本 賜

トンボが休憩場所に友達を連れて来た。トンボ同士の会話も聞こえてきそうだ。頭と心を柔らかくして自然を見ていると、様々な発見がある。



文化の日すいすい泳ぐスマホの指

和田のり子

今や書物に代わってスマホが知識の提供をしてくれている。操作する指の動きも素早くなめらかである。「すいすい泳ぐ」にスマホ文化礼賛の気分。